

プロジェクト写真



建築概要

施設用途：障害者福祉施設

事業主体：宮城県

構造：木造

延べ面積：おおくら園/3,686㎡ かまくら園/3,675㎡

所在地：宮城県黒川郡大和町吉田字上童子沢2-1

竣工：2020年

木材の供給

おおくら園：木材総量/543.8立米

土台：県外産ヒノキ/39.7立米（7.3%）

柱・梁・母屋・束：宮城県産杉/504.1立米（92.7%）

かまくら園：木材総量/539.9立米

土台：県外産ヒノキ/38.2立米（7.1%）

柱・梁・母屋・束：宮城県産杉/501.7立米（92.9%）

JAS材/30% 優良みやぎ材/70%

設計趣旨

『船形の郷』—互いを認め、共に生きる小さなまちを創る—
入所者の自立と充実した暮らしのために考えたのが、まちのような施設の在り様です。住まいがあってそこから学校や職場に通うというように、生活にメリハリとリズムをつくるということです。

まち全体は、「家」としての居住棟三棟と、その中心にある、日中活動を行う「学校」や「職場」としての活動棟、そして「役場」としての管理事務所から構成されています。今回は居住棟の二棟が完成しました。

居住棟のコンセプトは三つあります。

一つ目は、生活の質を高める安全・安心な住まいづくりです。

[個人]個室-[家族]ユニット-[地域]ユニットのつながりという空間的ヒエラルキーを中庭と光庭を中心に構成しました。それによりユニット内は自然の光や風を感じながら入所者が思い思いに選べる多様な居場所と、スタッフが安心して入所者を見守ることを両立した住まいを実現しました。

二つ目は、七ツ森の豊かな自然と調和した景観づくりです。

生活単位である各ユニットの屋根と、四つのユニットに囲まれた中庭の集合体が建物全体を構成しています。インテリアは明るく木の温もりを活かしながら空間に応じた天井の高さとしています。

三つ目は、木を使ったまちづくりです。構造は一般住宅と同じ在来木造による平屋建てとし、土台以外の構造材には県産材を使用しました。さらに製材、加工、建て方を県内企業が中心となって行い宮城県の林業振興に寄与することもできました。

設計者



意匠設計：前見文武・五十嵐哲也（佐藤総合計画）

構造設計：衣袋 歩（佐藤総合計画）



県産材に拘り、県内業者で作った、オール宮城の木造建築です。ひとつのユニットは大きな平面になりますが、プランは小部屋の集合体であり、スパンは住宅スケールの連続です。その特徴を活かし、住宅で使用される流通材を主体としたコンパクトな構造とすることで、ローコストでありながらも豊かな木質空間を実現することができました。また、壁で囲まれて閉鎖的になりがちな木造特有の課題については、斜め格子の耐力壁を配置することで解決しました。光を透過する斜め格子はこの建築のデザインの一部として空間に特徴を与えるとともに、水平力に抵抗する耐震要素として機能しています。

アクセス

仙台駅からのアクセス
宮城交通高速バス大衡行
吉岡営業所下車
タクシーで約 10 分

高速道路
東北自動車道
大和インター下車
約 15 分

住所：

〒981-3625

宮城県黒川郡大和町

吉田字上童子沢 2 1

